

経営のヒント63 スピード判断力

「できる社長」と「できない社長」の差はスピード判断力

世の中には、勝ち組企業の「できる社長」に対して、負け組企業の「できない社長」がいる。現在はよりその差、勝ち負けがはっきりしてきています。

この差が生じる原因はいくつもあるが、共通して言える要因は、判断力の差である。しかも、21世紀になりIT文化が一段と進化し、スピードが最重要視されるようになった。したがって判断力もあるだけではダメで、「スピード判断力」でなければ価値がないようになった。

では、「できない社長」は、なぜ判断が遅いのか、間違ってしまうのか、そして行動も遅いのか。その原因は次の3つである。

1つは、自分の価値観・判断基準が定まらない。

1つは、視野が狭い。

1つは、自分に囚われすぎる。

したがって、3つの原因を潰していけばいいのだ。

しかし、一番の問題は、自分自身がそうだと気づいていない経営者が多いこと。さて、あなたとあなたの会社の経営者はどうでしょうか？

人間、誰にも迷いが生じる。

「迷ったら原点にもどれ」

「迷ったら原理原則にもどれ」

見通しが得られないこの不透明な時代、しかもソフト化、即ちスピード化時代を迎えて、先見性を発揮し、半歩先を見通して歩むことが、競争に勝ち抜くために不可欠である。

つまり直面する問題に、即刻・即日に対応しなければ遅れをとってしまう。先手必勝の時代だ。

お客様のニーズは極めて移り気である。

その変化に対応するためには普段からスピードを意識することである。

「考えるよりスピード。スピードをもって結論を実行に移す」

スピード判断力を意識できない会社に未来は訪れない。

価値判断基準・・・優先順位を決めておく

「巧遅は拙速に如かず」孫子

例えば、新規事業がうまくいかず、赤字の額がふくらんだ。その時にどうするのか？

判断基準としては、

「損得」「正邪」「存続」「大小」「情理」といろいろある。

経営のヒント

今、重要な判断基準とは、何なのか。いつも考えておくこと

正邪・・・ルールに沿っているかどうか

善悪・・・社会的に良いことをしているかどうか

顧客・・・お客さまに満足していただくことになるかどうか

この3つの価値判断基準で間違った選択した企業は、淘汰されていく